

令和5年7月24日
令和5年度北陸地域の大豆生産推進に向けた県担当者会議

「里のほほえみ」の現状と 改良に向けた取組

農研機構 東北農業研究センター
水田輪作研究領域水田作物品種グループ
島村 聡

「里のほほえみ」の特性

- ダイズモザイクウイルス抵抗性が「強」
- コンバインによる収穫適性が高い
耐倒伏性が「強」
最下着莢節位高が「高」
裂莢性が「難」
- 幅広い食品加工適性
かなりの大粒、高タンパクで
品質が良い



手前：エンレイ 後方：里のほほえみ



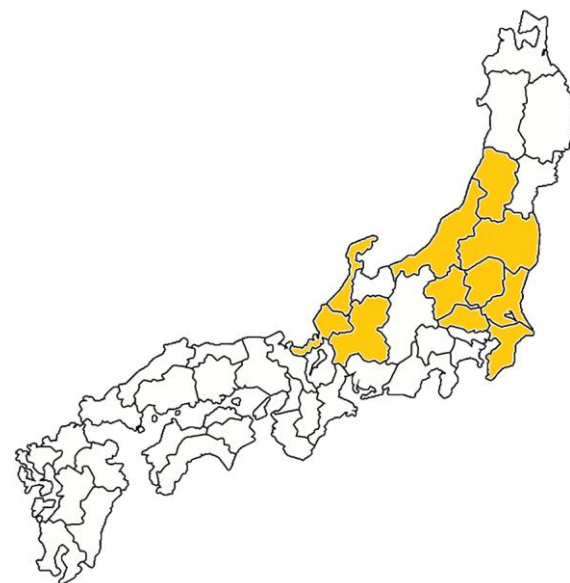
里のほほえみの草本

粗タンパク質	加工適性			
	豆腐	味噌 淡色/赤色	納豆	煮豆
高	適	好適/適	適	適

奨励品種採用県

山形県（2009年）、福井県（2010年）、栃木県（2011年）、
石川県（2012年）、茨城県（2014年）、埼玉県（2016年）、
新潟県（2016年）、群馬県（2017年）、福島県（2017年）、
千葉県（2020年）、岐阜県（2022年）の計11県
東北・北陸・関東と広域適応性も高い

2018年の作付面積において、「里のほほえみ」は、「フクユタカ」、「ユキホマレ」に次ぐ全国で3番目に普及している品種



育成後に生じた問題点

葉焼病抵抗性が「弱」
早期落葉で減収の影響が問題



ダイズシストセンチュウ（SCN）抵抗性が「弱」
センチュウ発生履歴のある圃場では問題



ラッカセイくい化ウイルス
（PSV）抵抗性が「弱」
外観品質低下の問題

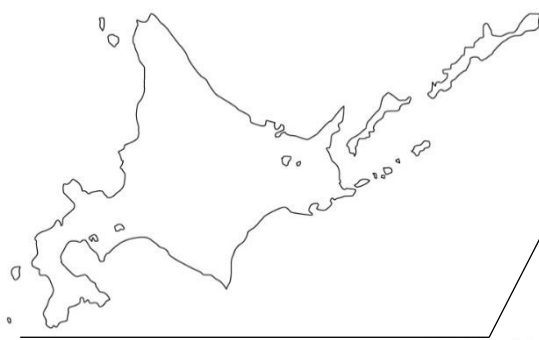


農研機構で開発している「里のほほえみ」の病害虫改良系統

系統名	葉焼病	SCN	PSV
系統A		○	○
系統B		○	
系統C	○		

Ⅲ 農研機構が開発している極多収系統

育成中の極多収系統の普及見込みの栽培地域



極多収系統C

R 5 年度以降の品種登録出願
に向けて検討中

普及予定：近畿、中四国、九州

極多収系統A

R 5 年度以降の品種登録出願
に向けて検討中

普及予定：東北、北陸

極多収系統B

R 4 年度品種登録出願中

普及予定：関東、東海、近畿

極多収系統D

R 4 年度品種登録出願中

普及予定：九州